

彩菜栽

2016年
2月

春一番の種まき、 育ちも早く美味しい小カブ



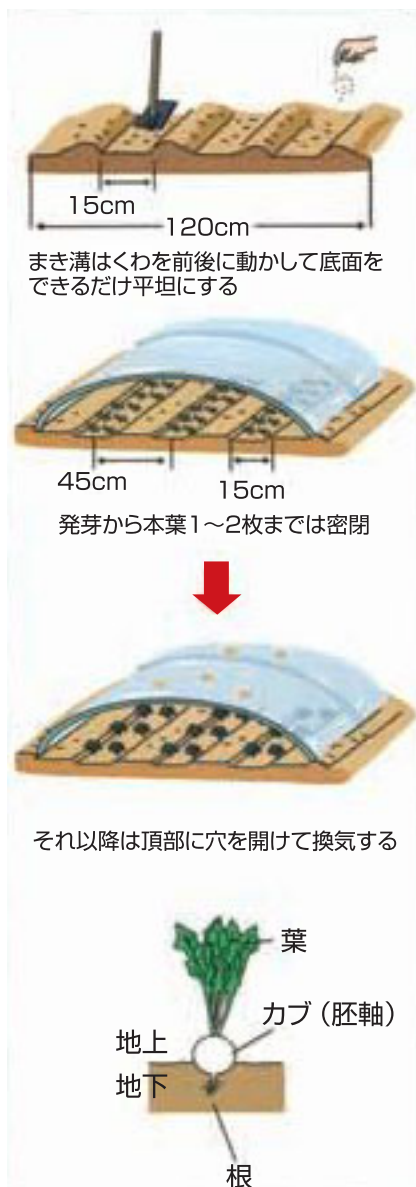
わが国への渡来は縄文時代の後期ともされる大変古い野菜。長い栽培の歴史の中で、全国各地に根付き、好みや用途に合わせてたくさんの方品種が生まれました。

これらの品種を取り入れ栽培してみても楽しみですが、中でも小カブ(金町系)は品種改良が進んでおり、生育期間が短く、色、形のそろいも

良く美味しいので、家庭菜園にはおすすめです。作型を選べば、ほぼ一年中栽培できるのが楽しみですが、他の野菜に先駆けて、春一番に種まきできるのも魅力です。

2月は立春とはいえ、平年なら1月下旬からの厳しい寒さが続く時期。最低気温もこの頃現れる年も多く、霜も降りるので、通常なら野菜の種まきができる時期ではありませんが、プラスチックフィルムをトンネル状に覆い、密閉すれば中は春。春一番の小カブの種まきができるのです。

育て方はなるべく早い内に図のように1.2m幅のベッドを作



まき溝はくわを前後に動かして底面をできるだけ平坦にする

発芽から本葉1~2枚までは密閉

それ以降は頂部に穴を開けて換気する

良く美味しいので、家庭菜園にはおすすめです。作型を選べば、ほぼ一年中栽培できるのが楽しみですが、他の野菜に先駆けて、春一番に種まきできるのも魅力です。

2月は立春とはいえ、平年なら1月下旬からの厳しい寒さが続く時期。最低気温もこの頃現れる年も多く、霜も降りるので、通常なら野菜の種まきができる時期ではありませんが、プラスチックフィルムをトンネル状に覆い、密閉すれば中は春。春一番の小カブの種まきができるのです。

り、全面に良質の完熟堆肥、油かす、化成肥料をばらまき、15cmほどの深さによく耕し込んでおきます。そしてくわ幅よりやや広めのまき溝を3列作り、溝底を平らにならしておきます。畑が乾いていたら、まき溝の外にはみ出さないよう、じょうろで十分灌水しておきます。種まき後にトンネルを密閉するので当分水分を保つようにたっぷり灌水しておくことが大切です。

種まきは、種子が大変小さいので厚まきにならないよう15~2cm間隔の薄まきにし、1~1.5cmぐらいの厚さに覆土し、くわの背中で軽くてん圧し、ベッド全面に再び灌水してからフィルムをトンネル状に覆い、裾には十分土をかけて密閉し、地温の上昇を図り、発芽と初期生育を促します。

発芽して本葉1~2枚に育ったならトンネル頂部に小穴を開けて換気し、外気温が上がり、トンネル内部が30度を超えるようになったら裾を上げて換気し、温度が上がり過ぎないように気を付けます。

本葉2~3枚ぐらいに育つにつれて株間が込み合わないよう徐々に逐次間引きを行い、灌水して乾き過ぎないように注意します。生育中2回ほど列の間に化成肥料を追肥し、軽く土に混ぜ込みます。

4月上旬以降外気が十分暖かくなったら徐々にトンネルを取り外して外気に慣らし、根径から5cm内外に肥大したら順次収穫します。葉も美味しいので捨てずに有効に利用しましょう。